



## 平成26年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成25年11月6日

上場会社名 日本山村硝子株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 5210 URL <http://www.yamamura.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山村 幸治  
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 荒木 陽一 TEL 06-4300-6000  
 四半期報告書提出予定日 平成25年11月11日 配当支払開始予定日 平成25年12月4日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 無  
 四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成26年3月期第2四半期の連結業績（平成25年4月1日～平成25年9月30日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第2四半期	36,700	△1.6	416	△30.7	715	△0.5	1,462	230.4
25年3月期第2四半期	37,305	△0.2	600	△59.6	719	△60.4	442	△59.8

(注) 包括利益 26年3月期第2四半期 3,314百万円 (216.1%) 25年3月期第2四半期 1,048百万円 (△0.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第2四半期	13.92	—
25年3月期第2四半期	4.21	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第2四半期	97,111	56,178	57.8
25年3月期	93,278	53,519	57.3

(参考) 自己資本 26年3月期第2四半期 56,129百万円 25年3月期 53,471百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	2.50	—	3.00	5.50
26年3月期	—	2.50	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	2.50	5.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

### 3. 平成26年3月期の連結業績予想（平成25年4月1日～平成26年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	71,000	0.7	△500	—	100	△80.6	600	186.5	5.71

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無： 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（四半期累計）

26年3月期2Q	111,452,494株	25年3月期	111,452,494株
26年3月期2Q	6,448,179株	25年3月期	6,441,073株
26年3月期2Q	105,008,498株	25年3月期2Q	105,025,250株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

上記の予想に関連する事項は、[添付資料] 3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（2）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

【添付資料】

添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	3
(1) 追加情報 .....	3
3. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(セグメント情報等) .....	9
(重要な後発事象) .....	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による経済対策や日本銀行の金融緩和政策に対する期待感から、円安や株高によって一部の企業収益環境や消費者のマインドに改善の動きが見られるなど、緩やかな回復基調が継続しました。しかしながら、電力料金の値上げや円安による原材料価格の上昇などにより、国内景気は依然として不透明な状況にあります。

このような中、当社グループでは山村グループ創業100周年となる2014年に向けた4ヵ年の中期経営計画の最終年度を迎えております。この中期経営計画では「世界のYAMAMURAへ一心と技術を伝えたい」のビジョンのもと、「パッケージング事業の再編と国際化」「ニューガラス事業の多角化」「新規事業とR&Dの推進」「グループコーポレート機能の強化」「人材基盤の確立」に取り組んでおります。

収益改善のため体制を見直した結果、第1四半期連結会計期間よりセグメント区分を変更することといたしました。また、前年同期のセグメント情報については、平成26年3月期の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

セグメント別の業績は以下のとおりです。

#### ①ガラスびん関連事業

ガラスびん関連事業では、国内需要の漸減傾向が続いており、セグメント売上高は22,670百万円（前年同期比3.2%減）と減収となりました。セグメント利益は、円安による原燃料価格の上昇や電力料金の高騰等がありましたが、特別修繕引当金の繰入廃止、減価償却費の減少や労務費、修繕費、外注費等の徹底したコスト削減により164百万円（前年同期は△19百万円）と増益となりました。

#### ②プラスチック容器関連事業

プラスチック容器関連事業では、従来非連結子会社であった山村ウタマ・インドプラスを連結対象としたこともあり、飲料用キャップは伸張しました。しかし、ペットボトルの販売量についてはお客様の内製化の影響もあり低調に推移したため、セグメント売上高は5,970百万円（前年同期比6.4%減）と減収となりました。セグメント利益は、修繕費、外注費等のコスト削減に注力したものの、円安による原料価格の上昇や電力料金の高騰等が大きく、111百万円（前年同期比77.3%減）と減益となりました。

#### ③物流関連事業

物流関連事業では、新規業務の開拓や既存業務の取扱い物量増に努めた結果、セグメント売上高は6,167百万円（前年同期比10.9%増）と増収となりました。しかし、新規業務の初期費用の負担増、作業労務費の増加、燃料費等の輸送コストアップにより、セグメント利益は△3百万円（前年同期は152百万円）と減益となりました。

#### ④ニューガラス関連事業

ニューガラス関連事業では、山村フォトニクス株式会社の主力製品である光関連部品が伸張しました。また、当社ニューガラスカンパニーでは、主にスマートフォン、タブレット端末に使用されるセラミックコンデンサ用粉末ガラスの出荷は伸張しましたが、プラズマテレビ用粉末ガラスの出荷の減少をカバーするまでには至らず、セグメント売上高は1,892百万円（前年同期比2.2%減）と減収となりました。セグメント利益は、生産効率の改善、減価償却費の減少やコスト削減を進めたことにより、26百万円（前年同期は△81百万円）と増益となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の連結売上高は36,700百万円（前年同期比1.6%減）と減収となりました。連結営業利益は416百万円（前年同期比30.7%減）と減益となりましたが、持分法による投資利益は610百万円（前年同期比156.5%増）と増益となったため、連結経常利益は715百万円（前年同期比0.5%減）とほぼ前年同期並みとなりました。特別利益に特別修繕引当金戻入額として3,541百万円を計上し、特別損失に大阪工場閉鎖に伴う損失の事業構造改善費用を2,123百万円計上した結果、連結四半期純利益は1,462百万円（前年同期比230.4%増）と大幅な増益となりました。

パッケージング事業の国際化として、平成25年6月28日に中国におけるワインびん等の製造・販売会社である秦皇島方圓包装玻璃有限公司の持分80%を取得しました。今後、同社を通じてさらなる国際事業の積極的展開を図ってまいります。

(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年3月期における通期の業績予想につきましては、当第2四半期までの状況、その後の経営環境等および事業構造改善に伴う損失を勘案して、平成25年5月14日公表の業績予想を修正しております。

詳細につきましては、本日(平成25年11月6日)公表の「特別損失の計上に関するお知らせ」、「希望退職募集の結果に関するお知らせ」および「平成26年3月期第2四半期連結累計期間における業績予想と実績との差異及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 追加情報

(硝子溶解窯の投資方針の変更)

硝子溶解窯の修理に備えるため特別修繕引当金を計上しておりましたが、収益環境の変化を踏まえ、平成25年6月11日開催の取締役会において、当社および連結子会社における硝子溶解窯の投資方針を戦略的に見直す決議を行い、今後は原状回復のための定期修繕ではなく、エネルギー効率や生産効率の改善を企図した新たな溶解窯を構築することとしました。

その結果、従来の特別修繕引当金は、第1四半期連結会計期間においてその全額を取崩し、特別利益に計上しております。

(事業構造改善費用)

平成25年3月11日開催の取締役会で平成26年3月期にガラスびんカンパニー大阪工場を閉鎖することを決議しておりましたが、平成25年12月末に操業を停止することといたしました。それに伴い、当第2四半期連結会計期間において、操業停止・閉鎖後に使用が見込まれない資産の減損損失およびその整理費用等を、事業構造改善費用として計上いたしました。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	8,807	7,907
受取手形及び売掛金	19,484	20,538
商品及び製品	6,996	7,297
仕掛品	446	412
原材料及び貯蔵品	2,407	2,284
その他	1,076	1,054
貸倒引当金	△11	△11
流動資産合計	39,207	39,484
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	10,134	8,904
機械装置及び運搬具（純額）	6,419	6,822
工具、器具及び備品（純額）	752	766
土地	11,319	11,328
建設仮勘定	1,055	387
有形固定資産合計	29,680	28,209
無形固定資産		
投資その他の資産	320	266
投資有価証券	3,499	3,811
関係会社株式	18,188	23,208
その他	2,434	2,180
貸倒引当金	△52	△50
投資その他の資産合計	24,070	29,150
固定資産合計	54,071	57,627
資産合計	93,278	97,111

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,134	8,178
短期借入金	5,261	6,261
未払法人税等	195	390
引当金	597	688
その他	3,221	2,301
流動負債合計	16,409	17,819
固定負債		
社債	1,000	1,000
長期借入金	14,980	17,180
退職給付引当金	3,078	3,066
特別修繕引当金	3,541	—
事業構造改善引当金	—	965
資産除去債務	97	97
その他	652	804
固定負債合計	23,349	23,113
負債合計	39,759	40,933
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	14,074	14,074
資本剰余金	17,300	17,300
利益剰余金	25,667	26,478
自己株式	△1,222	△1,223
株主資本合計	55,820	56,630
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	661	884
繰延ヘッジ損益	△0	△57
為替換算調整勘定	△3,009	△1,327
その他の包括利益累計額合計	△2,348	△500
少数株主持分	47	48
純資産合計	53,519	56,178
負債純資産合計	93,278	97,111

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
売上高	37,305	36,700
売上原価	30,911	30,683
売上総利益	6,393	6,017
販売費及び一般管理費	5,793	5,601
営業利益	600	416
営業外収益		
受取利息	2	1
受取配当金	46	52
持分法による投資利益	237	610
その他	141	113
営業外収益合計	428	778
営業外費用		
支払利息	168	163
支払手数料	—	184
租税公課	62	60
その他	78	71
営業外費用合計	309	478
経常利益	719	715
特別利益		
特別修繕引当金戻入額	—	3,541
特別利益合計	—	3,541
特別損失		
固定資産廃棄損	18	7
投資有価証券評価損	1	—
事業構造改善費用	—	2,123
特別損失合計	19	2,130
税金等調整前四半期純利益	699	2,125
法人税、住民税及び事業税	345	394
法人税等調整額	△91	265
法人税等合計	254	660
少数株主損益調整前四半期純利益	445	1,465
少数株主利益	2	3
四半期純利益	442	1,462



(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	445	1,465
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△60	223
繰延ヘッジ損益	△41	△57
為替換算調整勘定	△60	207
持分法適用会社に対する持分相当額	764	1,474
その他の包括利益合計	602	1,848
四半期包括利益	1,048	3,314
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,045	3,310
少数株主に係る四半期包括利益	3	3

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	699	2,125
減価償却費	1,875	1,765
減損損失	—	1,158
特別修繕引当金の増減額 (△は減少)	225	△3,541
事業構造改善引当金の増減額 (△は減少)	—	965
売上債権の増減額 (△は増加)	△2,266	△1,121
仕入債務の増減額 (△は減少)	642	842
その他	△440	△466
小計	736	1,729
利息及び配当金の受取額	59	53
利息の支払額	△168	△154
法人税等の支払額	△230	△217
法人税等の還付額	—	128
営業活動によるキャッシュ・フロー	397	1,539
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△1,749	△1,277
関係会社株式の取得による支出	△757	△3,817
貸付金の回収による収入	741	1
その他	△18	△249
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,783	△5,342
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入れによる収入	—	12,700
長期借入金の返済による支出	△500	△9,500
配当金の支払額	△263	△314
その他	△47	△67
財務活動によるキャッシュ・フロー	△810	2,817
現金及び現金同等物に係る換算差額	3	34
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△2,193	△951
現金及び現金同等物の期首残高	10,752	8,807
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	256	52
現金及び現金同等物の四半期末残高	8,815	7,907

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 2
	ガラス びん関 連事業	プラスチ ック容 器関 連事業	物流関 連事 業	ニューガ ラス関 連事 業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	23,427	6,381	5,560	1,934	37,305	—	37,305
セグメント間の内部 売上高又は振替高	5	836	6,105	3	6,951	△6,951	—
計	23,433	7,218	11,666	1,937	44,256	△6,951	37,305
セグメント利益 又は損失(△)	△19	491	152	△81	542	57	600

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額57百万円には、セグメント間取引消去62百万円、その他の調整△5百万円が含まれております。その他の調整は、報告セグメントに帰属しない全社費用と報告セグメントに計上されている営業外損益調整等です。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間（自平成25年4月1日 至平成25年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 2
	ガラス びん関 連事業	プラスチ ック容 器関 連事業	物流関 連事 業	ニューガ ラス関 連事 業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	22,670	5,970	6,167	1,892	36,700	—	36,700
セグメント間の内部 売上高又は振替高	17	890	5,738	3	6,649	△6,649	—
計	22,688	6,861	11,905	1,895	43,350	△6,649	36,700
セグメント利益 又は損失 (△)	164	111	△3	26	299	116	416

(注) 1. セグメント利益又は損失 (△) の調整額116百万円には、セグメント間取引消去63百万円、その他の調整53百万円が含まれております。その他の調整は、報告セグメントに帰属しない全社費用と報告セグメントに計上されている営業外損益調整等です。

2. セグメント利益又は損失 (△) は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間よりセグメント区分を次の報告セグメントとして記載する方法に変更しました。

当社グループのセグメントは、従来「ガラスびん関連事業」、「プラスチック容器関連事業」、「物流関連事業」、「ニューガラス関連事業」の4つの報告セグメントと「その他」に区分しておりましたが、「その他」に含まれていた当社エンジニアリング事業、星硝株式会社、株式会社山村製壺所を「ガラスびん関連事業」セグメントに含めることとしました。

これは、これまで個別に管理していたそれぞれの事業について、ガラスびんに関連する事業として一体で把握することにより、ガラスびん関連事業をより効率的に管理し収益の改善を目指すものです。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第2四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

(単位：百万円)

	ガラス びん関 連事業	プラスチ ック容 器関 連事業	物流関 連事 業	ニューガ ラス関 連事 業	合計
減損損失	547	—	611	—	1,158

※上記の減損損失は、四半期連結損益計算書の事業構造改善費用に含まれております。

(重要な後発事象)

当社は、平成25年3月11日開催の取締役会決議に基づき、収益改善の一環として希望退職者の募集を行い、平成25年11月6日に対象者を確定しました。その概要と詳細は以下のとおりです。

1. 希望退職募集の概要

- (1) 対象者：平成25年12月31日時点において、年齢40歳以上、かつ勤続年数10年以上の社員（関連会社への出向者を含む）。
- (2) 募集人数：70名程度
- (3) 募集期間：平成25年10月7日～10月18日
- (4) 退職日：平成25年12月31日
- (5) 優遇措置：退職者は会社都合として扱い、所定の退職金に加え希望退職加算金を支給する。また、希望者には再就職支援会社を通じた再就職支援を行う。

2. 希望退職募集の結果

応募者数：73名

3. 今後の見通し

希望退職募集により発生する費用は約3億円であり、平成26年3月期に特別損失として計上する予定です。